

朝日新聞
13(H25).2.16

設置「地元」の意向で

反対意見相次ぐ
小中一貫校構想
高山地区で懇話会

生駒市高山地区の「スー
パー」をめぐり、中核となる施設
「パースクールゾーン」構想
一体型小中一貫校の設置に

反対意見が相次いだ問題で、設置の是非が地元の意向に委ねられることになった。対象校の市立生駒北小学校で14日夜にあった「小中一貫教育懇話会」で、早川英雄教育長が明らかにした。

初めて開かれた懇話会には、座長の小柳和喜雄・奈良教育大教授、地元の学校

長、教員、保護者の代表ら11人が出席。早川教育長は冒頭、「ベストの案だと思いついたが、不安や批判の声が多数あった。皆さんの理解がないと進められない。懇話会で検討して頂き、その結論を尊重していく」と述べた。

市教委は10月末までの結論を見込み、新年度予算に

設計費など約1億円の計上を見送る。このため、2016年4月の開校予定は、実施が決まっても1年遅れる見込みという。